



より活発な議論でわかりやすい市政に

滑川市議会議員 前田 新作

新年明けましておめでとうございます。皆様には、輝かしい平成十七年の新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

私は、昨年十二月定例会におきまして、市議会議員長の要職に就くことになりました。議員各位のご支援、ご協力により、市勢の伸展と議会の円滑な運営のため懸命の努力を傾注する所存であります。

振り返ってみますと、昨年は大きな災害の多い年でありました。特に、わが国を直撃した台風の多さは記録的なものとなり、本市においても、十八号、二十三号によって大きな被害をこうむりました。そして、今も避難生活が続いている新潟中越地震の発生など、災害の怖さをまざまざと見せつけられ、同時に、防災の大切さを改めて認識させられた年でもありました。

今年一年、災害のない平穏で希望に満ちた年であるよう念願するとともに、備えあれば憂いなしのことばにあるとおり、誰もが安心して暮らせる災害に強いまちづくりを一層推進していかなければならないものと思っております。

さて、現在、国、地方の関係を見直し、地方分権時代にふさわしい新たな税財政基盤の構築を目指した三位一体の改革が焦点となっております。この三位一体の改革は、三兆円規模の国庫補助負担金の廃止・縮減等を行う代わりに、その財源について国税から個人住民税等に譲渡しようとするものであります。しかし、この税源移譲が適切に実施されるのかはまだまだ不透明であり、地方交付税の圧縮なども相まって、地方においては相対的な痛みを伴うものと考えられます。

このような情勢から、本市においても厳しい財政状況のもと、限られた予算の中でいかに知恵を絞って市政運営に当たっていくかが問われると同時に、今後ますます乏しい財源の配分が重要になるものと考えられます。このため、何が優先されるべきかについて議会での議論をさらに活発化させ、住民の皆さんによりわかりやすい市政にしていくなければなりません。

また、情報化、国際化が急速に進展する中において、一方で少子高齢化や環境問題などへの対応が求められており、議会の果たすべき役割もさらに大きくなるものと思っております。

私も市議会といたしまして、三万四千の市民の皆さんと心を一つに合わせ、豊かな地域社会の実現に向けて全力で取り組んでまいりたいと思っております。新しい年が、皆様にとって幸多き年となりますようお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

# 新年

創意と工夫を凝らし 一層の飛躍、発展を

滑川市長 中屋 一博



新年明けましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

それにしても昨年は、新潟県中越地震や相次いで列島に上陸した台風、豪雨による水害、夏の猛暑など記録的な災害が多発した年でありました。これらを教訓として常に災害に対する危機意識をもち、一層の防災対策に取り組み市民が安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

なお、昨年十二月一日現在の本市の人口は三万四千三百十三人と小矢部市を抜き市制施行以来初めて県内の市の中で最下位を脱しました。

さて、国と地方の税財政を巡る「三位一体の改革」では、国から地方への税源移譲がうたわれたことは地方分権に向けて風穴があいたものとして一定の評価をすべきと思いますが、削減された国庫補助負担金は額も件数も少なく、このため地方の自由度を増すべき改革が十分生かされていないうえ、先送りも多く不十分であり、また、不透明な部分が多く予断を許さない状況であります。

しかし、本市の新年度においては、引き続き西部小学校の増築を進めるほか、誰もがその人らしい安心で充実した生活を送れるような社会福祉の構築を目指し、ケアネット事業や福祉見回り隊事業等の各種施策をも積極的に推進してまいります。

また、海洋深層水分水施設「アクアポケット」も一月末完全オープン予定であります。これによって、七種類の機能水の供給が可能となり本市の活性化に大いに寄与するものと思っております。なお、保健・医療・福祉の拠点として、人が集い賑わう中心市街地活性化をも兼ねた施設である（仮称）市民交流プラザの建設に向けて鋭意努力してまいります。

いづれにしても、地方交付税の減額等により、かつてない厳しい財政状況が続くものと見込まれますが、一層、行政改革を進め創意と工夫を凝らし、自助、共助、公助を基本として、更なる飛躍、発展に向け市政運営に取り組みゆめゆめ所存であります。

新年、それは真新しいカレンダーが壁を飾る時節であります。

「初暦 知らぬ月日は美しく」との句があります。美しい暦を昨年のように「災」で汚してほしくないと思っております。

「災転じて福となす」新しい年がそんな年でありますように。皆様方のご多幸とご繁栄を心からお祈り申し上げ新年のご挨拶といたします。

## 2004年を振り返る

2004年の主な出来事や話題を振り返ってみました。そして、2005年を新たな気持ちで迎えましょう。



西地区 防災避難訓練



台風が市内を直撃



ファミリーパークゴルフ場がオープン



アテネ五輪出場、福田総監督（左）と谷井選手



ほたるいかミュージアム来館者が50万人突破



国道8号魚津滑川バイパス全線開通

- 1月** 新成人でつくった実行委員会が準備・運営をした成人式（391人が門出）
- 2月** 滑川市出身の浅井康博監督（俳優）の映画「逢いたい」が市内でも上映
- 3月** 第4次滑川市行政改革大綱を策定
- 3月** 市政功労者8人を表彰
- 3月** 滑川高校定時制が終了
- 3月** 市制50周年記念妻木雪山書展
- 3月** 国道8号魚津滑川バイパスが全線開通
- 3月** 浄化センター増設工事通水式
- 3月** 総合型地域スポーツクラブ「なめりCANクラブ」誕生
- 4月** 出村助役が新任
- 4月** ほたるいか海上観光5/5
- 4月** ほたるいかミュージアムの来館者が50万人を突破
- 4月** みわ温泉ファミリーハウスの入場者が100万人を突破
- 5月** 農産物・加工品直売所「滑川ひかる市」オープン
- 5月** 北信越市長会総会
- 6月** 防災パトロールで、土石流や地すべりなどの危険箇所を点検
- 7月** ふるさと龍宮まつり
- 7月** 滑川で開催された全国高校女子ウェートリフティング選手権大会で滑川高校3年の谷綾野さんが優勝
- 8月** アテネ五輪で、滑川市出身の福田富昭さんが総監督を務め、谷井孝行さんが選手として出場
- 8月** 東福寺野自然公園にファミリーパークゴルフ場が完成
- 9月** 台風18号が市内を直撃（この年の日本への台風上陸回数10回で過去最高の数）また年間を通じ、クマが人里に出没
- 10月** ほたるいかマラソン
- 11月** 西地区で、地域住民と市消防本部が協力し、防災避難訓練を実施
- 11月** ほたるいか折句コンテスト表彰式・講演会
- 11月** 海洋深層水分水施設の愛称とマスコットキャラクターが決定
- 12月** 市民の皆さんからの新潟県中越地震義援金を日本赤十字社を通じ送る